

はしがき

2021年11月20日～21日開催の第163回大会予稿集をお届けします。この大会は、コロナ禍のため、前回、前々回大会に引き続き、3度目のオンライン開催となります。大変困難な状況の下での大会開催ですが、大会運営委員長の江畑冬生さんをはじめとする大会運営委員のみなさんの献身的な努力により、無事開催されることになりました。これらの方々には心よりお礼を申し上げます。

今回の第163回大会には68件の応募があり、うち52件が採択されました（内訳：口頭発表41件（そのうち発表辞退3件）、ポスター5件、ワークショップ6件）。これまでの大会同様、様々な言語（あるいは言語一般）を対象とする、極めて多様なアプローチによる研究発表が予定されています。

11月21日に行なわれる会長就任講演は「日英語比較統辞論とパラメータの理論」と題して、言語をシステムとして比較することを主な目標とする生成文法の比較統辞論的アプローチを日英語比較に適用した「古典的」研究としてKuroda (1988)とFukui (1986, et seqq.)を取り上げ、それらの間に存在する根本的相違点に焦点を当てて論じると共に、その後さらに発展した「パラメータ」の理論を概観し、生成文法の枠組みの中で言語の多様性がどのように扱われることになるかについて私見を述べたいと思います。

同じく大会2日目午後には、公開特別シンポジウム（言語系学会連合・日本言語学会共同開催）として、「データベースをつくる・つかう：課題と展望」と題するシンポジウムが開催されます。現代の言語研究において欠かすことができない言語資料データベースが持つ特性や課題について、それをつくる側（開発者）とつかう側（言語学研究者）双方からそれぞれの現状分析、問題意識、将来的展望を述べていただきます。言語系学会連合担当の常任委員である北原真冬、菅原彩加、成田広樹の3氏が中心となって企画し、成田氏をコーディネーターとして、容認性判断データベース、子供発話コーパス、日本語諸方言コーパスなどが持つ課題と展望を、様々な大学・研究機関から講師あるいはディスカッサントとして参加していただく言語研究者に縦横に議論していただく予定です。

オンライン大会も何回目かになり、研究発表やディスカッションに限っていえばだいぶ慣れてきた感じがします。その結果、学問的議論に関してはそれほど不自由なく行なえるようになってきたのではないのでしょうか。ただ、懇親会に代表される学会の社交的側面に関しては、やはりオンラインでの大会開催では限界があります。一方で、そういった不利な状況のもとでも、何とか会員の相互交流を図ろうと、今回の大会における休憩室や懇親会では新たな会話を生みだすしくみを取り入れると大会運営委員会から聞いておりますので、ぜひご参加ください。

最後になりましたが、今大会も前回と同様に事前の参加登録と参加費の支払いが必要となりますので、どうかご登録をよろしくお願いいたします。

2021年10月

日本言語学会 会長 福井 直樹